

試験研究成果		畜産	16	豚	飼養管理
新技術・情報名	ウエットフィーディングによる豚舎内衛生環境改善			分類	①

## 1. 成果の内容

### 1) 技術・情報の内容及び特徴

肥育豚に対しウエットフィーディングを実施することで、豚舎内の衛生環境が改善され、慢性呼吸器系疾病の発生が抑えられ、1日増体量が向上することを明らかにした。

- (1) 豚房内浮遊塵埃量及び落下細菌数は、ウエットタイプが、マッシュ及びペレットタイプに比べ10～20%少ない。
- (2) マッシュタイプは、飼料の食べこぼしが多く、床面塵埃量が多い。
- (3) 発育成績は、ウエットタイプが1日増体量で約70g、105kg到達日齢で約10日良好である。
- (4) と体の呼吸器系病変の発現率は、ウエットタイプが少なく、マッシュ及びペレットタイプの1/2～1/3程度の発現率である。
- (5) と体成績については有意な差は見られないが、ウエットタイプは発育が速いため、背脂肪が若干厚くなる傾向がある。

### 2) 技術・情報の適用効果

豚舎内衛生環境の改善及び肥育豚の生産性の向上。

### 3) 適用範囲

県下全域の養豚農家

### 4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) ウエットフィーダーには種類が多く、利用に際しては食べ残しの出ないように飼料落下量を調整する。
- (2) 枝肉が厚脂になる傾向があるので、肥育後期の飼料給与には注意し、制限給餌や飼料の養分量調整を行う。
- (3) ペレットタイプは、飼料単価では2円程度高いがこぼれが少なく飼料利用性が良く経済性が優れているので今後はウエットフィーダーでの利用も可能である。

2. 具体的データ

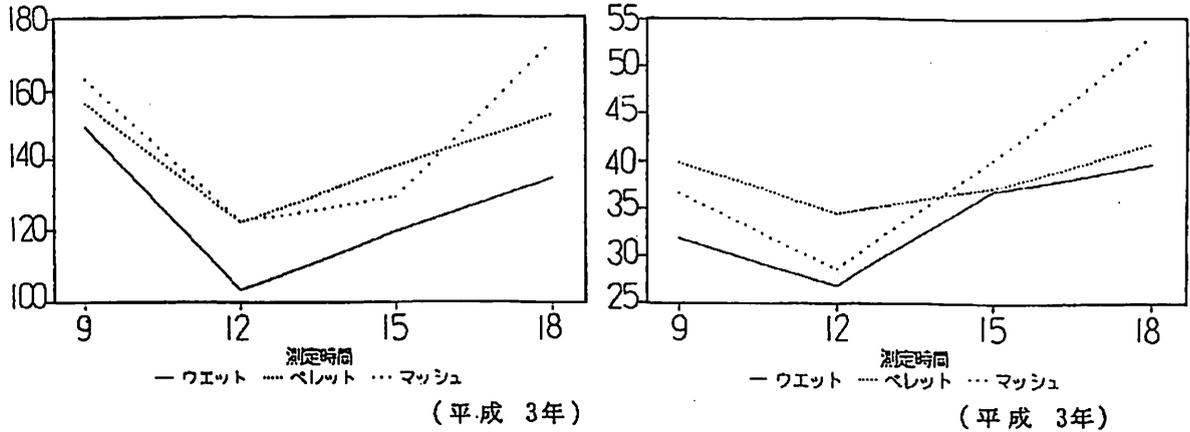


図1 浮遊塵埃量 (CPH)

図2 落下細菌数 (個/10cm<sup>2</sup>\*10sec)

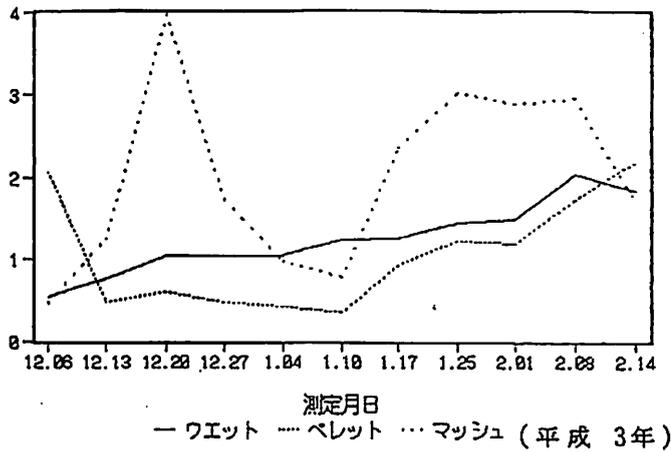


図3 床面塵埃量 (kg/週)

表1 産肉成績及びと体病変 (平成 3年)

区	1日 105kg 飼料	増体量	日齢	飼料要求率	ロース背脂肪の厚さ	背 (3部位)	萎縮性 MPS 胸膜炎	心外膜炎
ウエット	805g	176日	3.56	21.5cm <sup>2</sup>	2.11 (2.99)cm	44%	19%	6%
ペレット	734	187	3.28	24.0	2.03 (2.92)	56	50	31
マッシュ	731	187	3.65	22.6	1.99 (2.88)	50	31	19

注) ①調査頭数は各区24頭 (と体調査は各区16頭)。

②と体病変は (病変頭数/調査頭数) × 100%, MPSはマイコプラズマ性肺炎。

3. その他特記事項

担当部科室名: 畜産研究所 中小家畜部 養豚研究室  
 研究担当者名: 投野和彦, 佐藤充徳, 大和碩哉  
 研究課題名: 慢性呼吸器系疾病防止のための飼料給与  
 期間: 平成 3年~平成 4年 予算区分: 経常  
 既発表論文・資料名等: 平成 3年度畜産関係試験成績書  
 取りまとめ責任者名: 投野和彦